資料2

四万十川流域におけるツル類の飛来・生息状況について

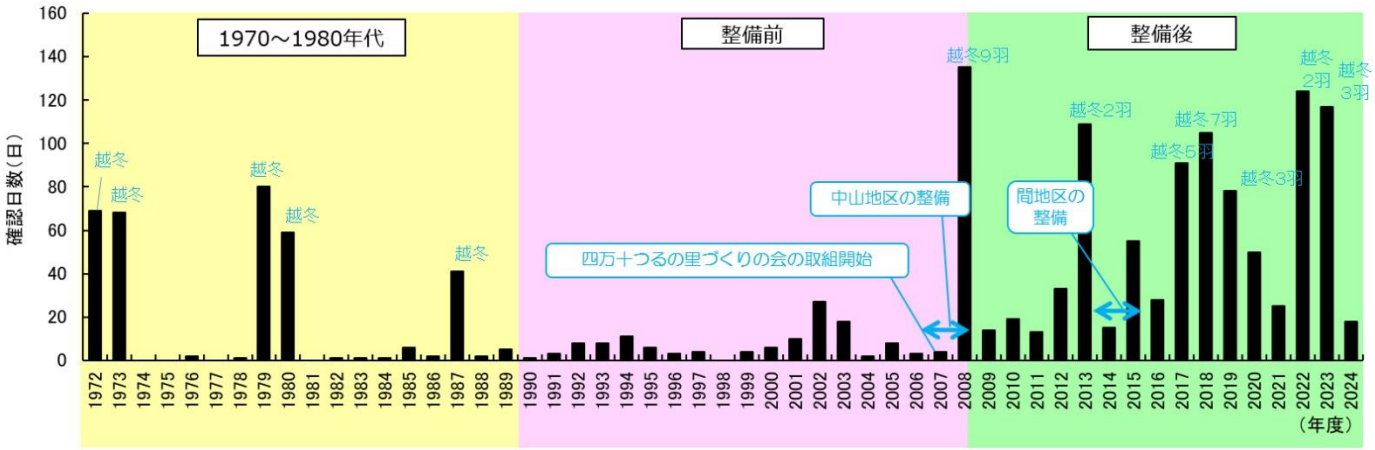
四万十川流域におけるツル類の飛来状況

四万十川自然再生事業の一環として、2002年度から「ツルの里づくり」の取組が行われています。取組を開始してから四万十川市内におけるツル類の確認日数、越冬頻度は増加しています。しかし、飛来するツル類に対し、越冬個体数は未だ少ない状況にあります。

最近では2022年度にナベヅル2羽、2023年度にナベヅル3羽が越冬しましたが、2021年度や2024年度のように確認日数も少なく越冬個体もいない年度もまだあります。

なお、四万十つるの里づくりの会では、越冬の定義を12月に10日以上かつ翌年1月に10日以上確認した場合と定めています。

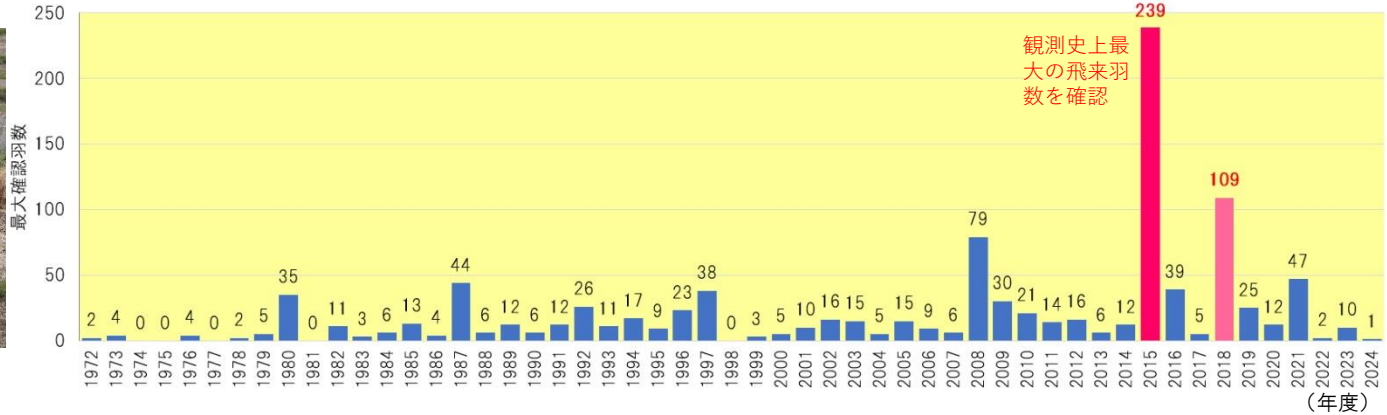
河道内にツル類の暮らせる環境を整備した中山箇所で2013年度に越冬したマナヅル2羽



四万十市におけるツル類の確認日数の推移

※2024年度は2025年1月6日時点の記録

観測史上最大数が飛来した2015年度のナベヅルの状況

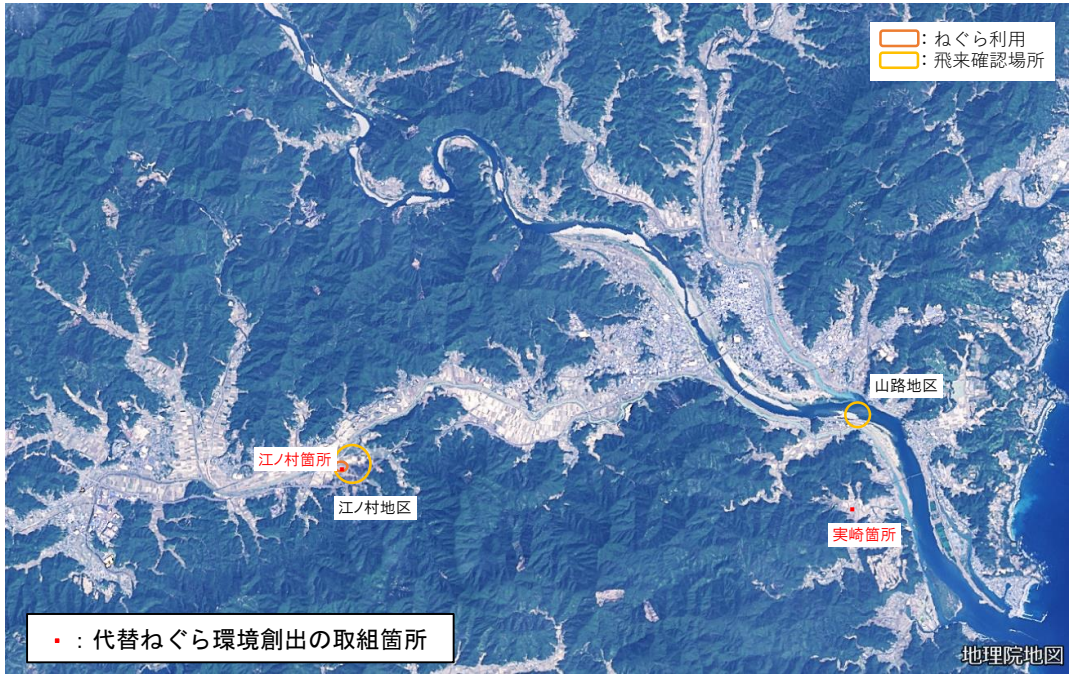


四万十市におけるツル類の最大飛来羽数の推移

※2024年度は2025年1月6日時点の記録

今年度のツル類の飛来・生息状況

- 2024年11月9日にナベヅル1羽が江ノ村地区へ飛来し、今期の初飛来を確認しました。
- 今年度、ナベヅルがねぐらとして利用したのは、江ノ村地区（代替ねぐら環境として、冬期に水を張った田んぼ）でした。四万十川の砂州でのねぐら利用は確認されませんでしたが、山路地区の砂州ではナベヅル1羽の日中の利用が1度記録されています。
- 採食場としての利用が確認されたのは江ノ村地区で、未耕起水田での二番穂の採食や、冬期に水を張った水田で小さなものを飲み込む様子が見られました。
- 発砲音に似た落ち鮎漁解禁時の花火の音[ツルとの距離約7000m]には、一旦動きを止め静止したことから、遠方であっても警戒度が高いものと考えられます。
- 見物人2 名によるスマートフォンでの撮影[ツルとの距離約75m]には強い警戒を示しました。
- ねぐら箇所付近でイノシシの群れ（4 頭）が確認されました[ツルとの距離約50m]。ナベヅルは少し警戒し、遠ざかると警戒を解除しましたが、もし夜間にこれらのイノシシが出現すると、日中に比べ警戒度が高くなる可能性があると考えられます。イノシシは実崎箇所でも確認されています。



空中写真：「空中写真データ」（国土地理院）（https://cyberjapandata.gsi.go.jp）をもとに作成

江ノ村箇所のナベヅル（赤丸）、ほかはデコイ
令和6 年11 月30 日13 時台撮影

スマートフォンで撮影する見物人【飛び立ちなし】
令和6 年12 月1 日10 時台撮影（江ノ村地区）

夜間に撮影されたイノシシ
令和6 年11 月8 日3 時台撮影（実崎箇所）

（参考）四国におけるツル類の飛来・越冬の状況（2024年10月～12月）

希少種情報につき取扱注意

- 今期（2024年10月～2024年12月）は、四国において、[redacted]、[redacted]、[redacted]、[redacted]、四万十市でツル類（ナベヅル・マナヅル）の飛来が確認されています。

希少種情報につき、委員限り

四国におけるツル類の飛来状況　（2024年10月1日～2024年12月31日）

「国土数値情報（行政区域データ）、（河川ラインデータ）」（国土交通省）をもとに作成